

グアンタナモでのコーラン。・・アラビアでの聖書。

サウジアラビアは、ニュースウィークによって発表され後に撤回されたグアンタナモでのコーランの冒涇事件に対して抗議を申し立てた国の一つである。しかし、ワシントンのサウジ研究所の所長 Ali al-Ahmed はグアンタナモでアメリカ人兵士たちが一度した行為は、サウジアラビアで聖書に対して通常見られる行為であると言う (The Wall Street Journal, 20-V-2005)。

「イスラム教徒である私は、合衆国ではどの本屋でもコーランを買い求め、また合衆国のどこの大学でもコーランを研究することができる。合衆国のミュージアムは、莫大な資金を費やしてイスラムの美術や伝統についての展覧会や学会を開催する。しかしながら、私の出身地であるサウジアラビアでは、キリスト教徒や他の宗教の人々は、彼らの聖典を一冊も手にすることが許されていない。それどころか、サウジアラビア政府は、税関で聖書を没収し、また隠れて礼拝しているところを発見されたキリスト教徒からも聖書を取り上げるが、没収されたそれらの聖書を冒涇し焼却している。

サウジアラビアでは聖書を持っているのを見つけられる者は、死刑か投獄か国外退去の罰を受ける。1993年には、一人のイスラム教徒が聖書を持っていたかどで、背教者として断罪され死刑になった。同国では、毎年多くのキリスト教徒が信仰を实践したという理由で、逮捕されたり追放されたりしている。

「我々イスラム教徒は、他の宗教の聖典や宗教的シンボルに対してキリスト教徒やユダヤ教徒ほど寛大に敬意を示さなかった。サウジアラビアでは十字架やダビデの星、あるいは同国の宗教界を牛耳っているワッハーブ派が許可していない他の宗教のいかなるシンボルも輸入することも公示することも禁じられている。」サウジアラビア在住の外国人には、宗教的祝日を祝うことは許されていない。

「サウジアラビアの大使館と合衆国で活動する他のサウジの組織は、多くのコーランと他のイスラム関係の書物を配布したが、その中にはキリスト教徒やユダヤ教徒や他の宗教者を豚やサルと呼んで罵倒しているものもある。その反対に欧米に暮らすイスラム共同体は、欧米諸国中でも合衆国がイスラム教徒に最大限の自由と保護を与えておりそれがためにイスラム教が欧米世界で繁栄していることを認めるのに吝かではない。それに対して、西アジアで生まれたキリスト教徒とユダヤ教は、西アジア諸国政府の組織的な体抑圧によって名誉を毀損されている。」

アル・アフメッドの結論は簡単である。「もしイスラム教徒が、他の宗教がイスラム教とその聖典に敬意を払うことを望むならば、まず自らが模範を示すことだ。」